

# American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第26回

## ジョン・クーガー 「ジャック&ダイアン」

米国中部を舞台にした切ない若者のストーリー



John Cougar  
"American Fool"  
Riva●RVL7501 [1982]  
⇒マーキュリー(ユニバーサル)  
©UICY94795

使うようになった。地方から出てきてニューヨークでデビューをしたときはマネージャーがデイヴィッド・ボウイと同じトニー・デフリーズで、トニーは本名のジョン・メレンキャンプだと売れないと思い、名前を勝手に「ジョン・クーガー」と変えてしまっていたんだ。

ジョン・メレンキャンプはアメリカ中部のインディアナ州にあるシーモアという小さな街で生まれた。そこは人口1万7千人ぐらいの農村労働者階級の人々が住む街で、ジョンはデビュー当時からの世界をテーマにした曲を作っている。そしてこの曲を作った頃から、ソングライティングの腕を評価されはじめた。明るい未来を描くことができない、アメリカ中部に暮らす若者たちの歌。ジョン自身も高校を卒業する前に結婚をしていたので、この世界をよく知っていた。今でも彼はその街のそばにあるブルミングトンに住んでいるんだ。では、曲に入ろう。

Little dirty, about Jack and Diane  
Two American kids growin' up, in the  
heartland

デビュー6年目の1982年にジョン・クーガーがリリースしたアルバム『アメリカン・フル』は、『ビルボード』200チャートのナンバーワンに輝き、彼の人生を変える一枚となった。『アメリカン・フル』は3月に紙ジャケットでリイシューされたばかりだが(※)、このアルバムからシングル化された2曲も、やはり両方ともナンバーワンを飾っている。1曲は「青

春の傷あと (Hurts So Good)」、そして2曲目が今回紹介する「ジャック&ダイアン」だ。これは同年の『ビルボード』ホット100のトップに4週間も君臨した。そのセールズと評価のおかげで、ジョンは音楽活動を自分でコントロールできるようになった。つまり、自分の力を前面に出せるようになったのだ。例えばこの次のアルバムからは、名前に本名の「メレンキャンプ」を

「ジャックとダイアン」についての短い歌。'ditty'とは短い歌もしくはポエムのことを指す。アメリカの中核地域で育った二人の子供たち。ここでの 'kids' とは小さい子供のことではなく、高校生ぐらいの若者たちを指している。

この詩に出てくる 'heartland' とは、国の心臓部となるような中心にあるエリア。進歩的なニューヨークとはまた別で、保守的なムーヴメントが生まれるミッドウエストだ。特にミシシッピ川の両サイドにあるミズーリ州やイリノイ州、アイオワ州をはじめ、インディアナ州やカンザス州、ミシガン州、ミネソタ州、オハイオ州……つまり海から遠い州で、メキシコ湾につながる州まで含まれることもある、それがアメリカのハートランドだ。

Jackie gonna be a football star

Diane's the debutante backseat of

Jackie's car

「ジャッキーはフットボールのスターになることを夢見ていた。そしてダイアンは、ジャッキーの車の後部席へ 'debutante' す

る。'debutante' についてはあとにして、まずはアメリカン・フットボールの説明をしよう。

アメリカの国技はベースボールとよく言われるが、アメフトも人気で、子供たちへの影響力もかなり大きい。同じチーム・スポーツでも、両者はかなり違う。ベースボールではピッチャーがスターだが、アメフトにはピッチャーがスターバックは、それ以上にはヒーローだと俺は思っている。アメフトのヒーローほど、ステイタスのあるポジションはない。アメフトの勝負はクォーターバックにかかっている。高校でも一番人気なのはアメフトだ。アメリカの田舎に行くと、秋から冬にかけてのフットボール・シーズンには、毎週末、試合を観に町中の人が集まって来る。

ヒーローであるクォーターバックは、一番かわいいたアリーダーと付き合っている。彼らはベースボール・シーズンでは4番バッターかピッチャーになるほど運動神経がいい。しかもクォーターバックに選ばれる人間は身体能力があるだけではない。みんなに好かれ、頭も良く、紳士ではなければいけない。ほかの選手はクォーターバック

を守るために彼の前に並び、相撲取りくらしい大きい選手たちに向かって体を張る。相手の選手たちがクォーターバックに手を触れないようにラインを守るんだ。彼らもしも、そのクォーターバックに対してちょっとでも嫌な気持ちを持つていたら、自分たちの体を張ることはしないだろう。1ミリでも体を右か左に動かすだけで、そのクォーターバックは敵のチームに倒されてしまう。いろんな人種もいるから、例えばフィールドの外でクォーターバックが人種差別をしたとしたら、その1ミリは守られないだろう。逆に学校で人種差別があったら、それを止めるのがクォーターバックの役目なんだ。

アメリカ人は正義の味方が好きだ。白い帽子の保安官、スーパーマン、アウトロー自分なりに正しく生きていく人たちだ。自分の命をかけてもね。そう、クォーターバックは正義の味方のひとりなんだ。

先の 'debutante' とは社交界へデビューする女性のことを言うが、この曲のなかでは学校のことを言っているのだろう。おそらく彼女は、チアリーダーになりたいのだ。

Sucking on a chili dog, outside the  
Tastee Freeze

「テイスティー・フリーズという店の外でチリ・ドッグをむさぼっている。'suckin' on」という言葉遣いで、ちよつと下品なニュアンスを出している。このテイスティー・フリーズという店は、1950年に創立されたソフトクリームとファストフードのチェーン店だ。もともとはテイクアウトだけだったが、今はレストランになっていく。安いから若者たちがよく集まる場所なんだ。

Diane's sitting on Jackie's lap  
He's got his hand between her knees  
Jackie say, "Hey Diane let's run off  
behind a shady trees"  
Dribble off those Bobby Brooks, let  
me do what I please"

「ダイアンはジャッキーの膝の上に座り、ジャッキーは彼女の膝の間に手を入れている。高校生の初体験だろう。「なあダイアン、木陰に走って行って、そのボビー・ブ



ルックスを脱ぎ捨てて、俺が好きなことをやらせてくれないか。」とジャッキーはダイアンに言った。  
ボビー・ブルックスは1939年にシカゴで設立されたレディーズもののアパレル会社だ。この曲が流行っていた80年代の前半に破産したが、今はまた営業している。50年代から60年代にかけて、女の子の評判や名誉を守るのはこの服だという言葉があったのだ。「the only thing standing in the way between a girl and her reputation was Bobbie Brooks」ってね。

(chorus)  
And say uh...  
Oh yeah life goes on  
Long after the thrill of livin' is gone,  
they say  
Oh yeah say life goes on  
Long after the thrill of livin' is gone,  
they walk on

「オーイエー、人生は進んでいく。生きることスリルがなくなっても。オーイエー、人生は進んでいく。生きることにスリ

ルがなくなっても、彼らは歩み続ける。」

Jackie sits back collects his thoughts  
for the moment  
Scratches his head and does his best  
James Dean  
Well then there Diane, we oughta' run  
off to the city  
Diane says, "Baby, you ain't missin'  
nothing"  
And Jackie say uh...

ジャッキーは座り込んで、自分の思いつきについて考えている。頭を掻いて、ジェームズ・ディーンの真似をする。「どうだいダイアン、街にでも行かないか」。ダイアンが答える。「街なんかに行っても何もないよ」。つまりジャッキーが大きな街に出て行くのを誘うが、ダイアンはそのまっさらの小さな町にでもいいじゃないかと答えているんだ。田舎ではよくあることだよね。

(chorus)  
So let it rock  
Let it roll

Let the Bible Belt come down and  
save my soul

「ロックをさせてくれ、ロールをさせてくれ。バイブル・ベルトが降りてきて、俺の魂を救ってくれ。」。「Come down」というのは、空から神の教えが降りてくるということで、「Bible Belt」はアメリカのサウスイーストとミッドウエストの地域の名前。そのあたりはアメリカ全体よりも基本的に教会への出席率が高いエリアで、バイブル・ベルトという言葉が使われるときは、その地域の文化的保守性や反知性主義を揶揄するときに使われることが多い。政治は共和党寄りだ。

Hold on to 16 as long as you can  
Changes come around real soon  
Make us women and men

「できるだけ長く16歳という時期を大事にしよう。すぐに様々なものが変わって、俺たちを大人の女と男にしてしまうから。」



ジョージ・カックル /  
GEORGE COCKLE  
ラジオ・パーソナリティ。  
1956年、鎌倉生まれ。  
18歳で新宿2丁目のロック・バー<開拓地>で、音楽の世界にのめり込む。ハワイアンなどのCDをプロデュースする傍ら、インターFMでは音楽番組「レイジーサンデー」のパーソナリティをつとめ、音楽通ぶりを披露。さらにサーフ・イベントなどのMCでも活躍。  
http://whatsupmusic.inc.com

(chorus)  
A little dirty about Jack and Diane  
Two American kids doing the best  
they can  
詩には、ジャックとダイアンの短い歌だ。アメリカの若者が、一生懸命でできるだけのことをやっている」とある。ここでは最初の1行をリピートし、2行目を少し変えている。ふたりのアメリカの若者ががんばっている」と。  
切なさが漂う詩だ。彼らはもしかしたら小さな街から出られないかもしれない。もしかしたら、ふたりの人生の一番良かった時代は高校の時だったかもしれない。彼はアメフトをやり、学校のヒーローだった。彼女は高校のチアリーダーを目指していた。これはアメリカの中部によくあるストーリーを曲にしたものなんだ。